

第 19 回アンケート結果 (抜粋)

1. 一般講演 4 : 「簡易映像記録システムの構築と人の流れの分析」

1. MZ Platform のアクセサリとして、映像分析ツールなどを充実できると面白いと思いました (人の数・運動量・滞留カウント・分析など)。
2. 「人の流れ」を交通整理に活かす、運用ノウハウの蓄積に応用できると思いました。
3. 混雑状況 (画面中の人数) は自動的に認識すると、とても楽になると思いました。

(回答) コメントありがとうございます。その方向で検討しているところです。

4. 改善点の発見 (問題解決) に、どのくらい時間を要しましたか (チェックに何人分かかっていましたか) ? 「混雑」の定量化に加えて、「流れ」も何かしら定量化してほしいです。また、複数カメラ間の連携ができれば、問題点に気づきやすくなるのかなと思いました。「イベント」は横軸に並べると良いかとも思いました。

(回答) 映像を目視することによる分析と改善点の発見について、本発表で紹介した内容に関しては 1 人で延べ 20 時間程度要しました。「混雑」と「流れ」の定量化は、関連研究の調査が必要と考えています。その他のコメントについても、検討してみます。ありがとうございました。

5. 特定の人をマーキングして、人の流れを見えるようにできると見やすくなるのですが、難しいそうですね。

(回答) 画像や映像から人を認識して動きを追跡する技術は、コンピュータビジョンの分野で研究がなされています。そのような関連研究の技術を導入することで、分析の労力を低減することを検討しているところです。

6. 実際に「改善に役立った」という点は、素晴らしいと思いました。技術的には新鮮さを感じませんでした。

(回答) ご指摘の通り、本発表に技術的な新しさはありません。研究会の趣旨に沿った事例の共有として発表しています。ただし、このような既存技術の組み合わせで身の回りの問題解決を支援するという活動自体が、要素技術の研究と同程度もしくはそれ以上に、より良い社会を実現するための研究活動として重要だと考えています。

7. 分かりやすい発表でした。リアルタイムの監視システムとしても利用できると良いです。
8. つくば宇宙センターの特別公開でも実施できればいいのにな、と思いました。

(回答) ありがとうございます。作成したソフトウェアは、MZ Platform のアプリケーション例として公開する予定です。他のイベントで本システムを稼動するためには、発表でも触れましたようにイベント開催側の許諾と参加者への周知などの事前準備が必要になりますが、それらの条件がクリアできればご協力することは可能です。